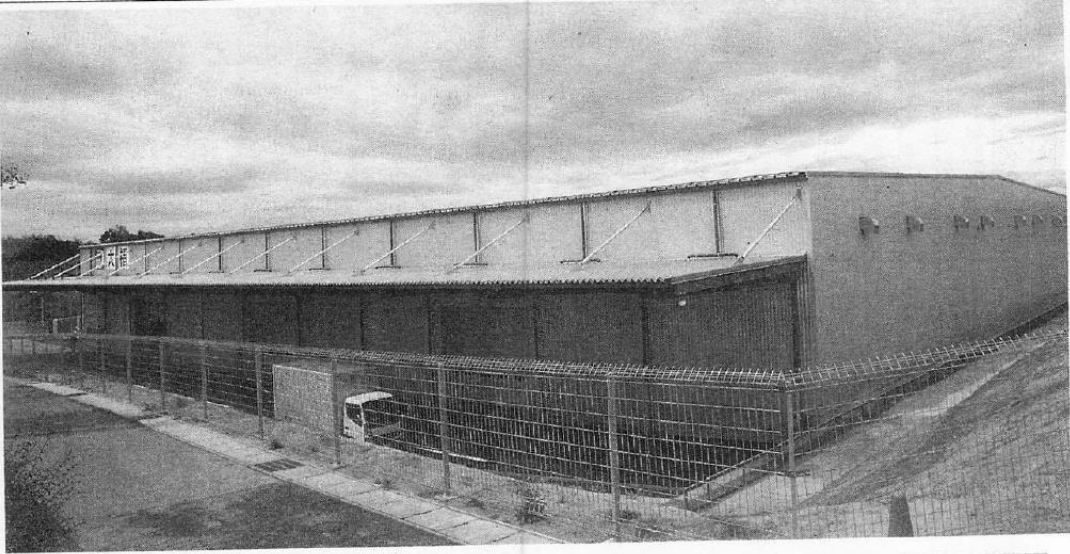


搬入と搬出を東西方向に分離



# グループ初 自社センター

## 来月本稼働 愛知・東海で竣工

### 自動トラックを導入

【愛知】豊福組運輸（恒川浩一社長、名古屋市中川区）グループの大福（糟谷信宏社長、同）は14日、愛知県東海市に東海物流センターを竣工させた。大福の入出庫拠点として一般雑貨などを扱うグループ初の物流センターで、5月下旬から荷物の受け入れを開始し、6月1日からの本稼働を目指す。

（梅本誠治）

センター内には、効率化の追求に向けて自動トラックを導入。また、作業者の快適さや熱中症予防といった働く環境に配慮し、フォークリフトにはブラザー工業の排熱レス&フロンレススポットクーラー「Pure Drive」を取り付けた。

見込んでいる。

同日の竣工式で、糟谷社長は「11年前の創業以来、同業他社の方から刺激を受け、いずれは自社の物流センターを持ちたいとの思いで業務に励んできた。3、4年前から物流拠点を探す中で様々な方に相談し、縁あってこの地にセンターを竣工できた今日をスタートに、今後もスピード感を持って事業を発展させていきたい」とあいさつ。

掛けた。トラック業界の「2024年問題」など、これからの物流を取り巻く環境は厳しさが続くと言われているが、当社でも事業内容を精査しながら共に乗り越え、ここに集まった方々と成長していければと考えている」と祝辞を述べた。

敷地面積は8900平方メートル、延べ床面積は4400平方メートルで、庫内の一部に2階部分を置く鉄骨造り平屋建て。搬入と搬出を東西方向に分離して運用面の最適化を図るとともに、海上コンテナ用ベースも備えて様々な貨物に対応できる環境を整えている。

式典には荷主や物流事業者が多く参加し、同センターの竣工を祝福した。豊福組運輸の恒川社長は「大福がセンターを完成できたのは、ここに集まっていた方々を支えがあればこそ感謝している。今後も一層稼働を正し、皆のためになる事業推進に向けて尽力していくので見守って欲しい」と締めくくった。

給油施設と洗車場に加え、センター横には営業所を設置。運用開始後は1日

荷主を代表して、アスト（林裕之社長、大阪市中央区）西日本物流部の樋口守部部長が「新型コロナウイルス禍当初は、我々が主力とする家庭紙などが大変な状況の中で、色々とご苦労を

を

めくった。

大福